

令和2年度「生徒努力目標」
 ① 根気よく、主体的に学ぼう。
 ② 自分も周囲の人も、大切しよう。
 ③ 自分と向き合い、進路を切り開こう。

学校だより

茨木市立東中学校
 R2年 10月1日 No.5
 文責 校長 坪田 泉

文化発表会 展示の部

参観ありがとうございました。

つくし学級 制作



2年生 学年発表会



1年 共同作品



美術科 模写



9/18(金) 第70回文化発表会
 『展示発表』 個人の作品やクラスでの取り組み、各授業や部活動の発表など、創意工夫あふれる個性豊かな作品をご覧いただけたと思います。

『ステージ発表』 体育館で生徒会本部役員による伝承太鼓と2年生の学年集会の発表がありました。伝承太鼓は現生徒会メンバーが昨年の「3年生を送る会」のために練習し準備していましたが、休校や行事の中止でお披露目する機会がありませんでした。R元年度末の生徒会選挙も実施できず、昨年度後期から引き続き生徒会の活動をしてくれているメンバーが演奏してくれました。太鼓の練習も例年ならば地域の大池太鼓さんにご指導いただいておりますが、感染症対策のため今回は生徒だけで練習しました。自分たちでやらなければならないというプレッシャーが気持ちを奮立たせ「今まででやったなかで一番よくそろっていたと思う。うまいっ！」という声を聴きました。1, 3年生にも映像で見てもうることができて本当に良かったです。

『2年生の学年集会』 「平和」をテーマに生徒一人ひとりが深く考えまとめた内容で、文化委員さんの寸劇も聞く態度も素晴らしいかったです。「平和新聞」の中から2つ紹介します。

2年3組藤原 侑生さん
 僕はブラックライブズマター運動と呼ばれるアメリカから始まった人種差別への抗議運動について新聞に書きました。ブラックライブズマターとは直訳すると「黒人の命は大それた」という意味です。知っている人もいます。今年の5月に白人警官が無抵抗の黒人男性を殺害した動画がSNSに上げられたことを発端に、Black Live Matter というハッシュタグとともにSNS上で拡がり世界的な人種差別への抗議運動へつながっていきました。

また、抗議の声はスポーツ界にも広がりました。テニスプレイヤーの大坂なおみさんはハイチ系アメリカ人の父と日本人の母を持つダブルですが、先日彼女が優勝した、全米オープン大会で人種差別への抗議を表すため決勝までの全7試合に、それぞれ違う名前が書かれたマスクを着用しました。それらは全て、過去に差別の犠牲となった人々の名前です。優勝直後のインタビューで、彼女は「私のマスクを見て色々な人が話題にしてくれたらうれしい。」と語っています。新聞にも書きましたが、ブラックライブズ マター 運動を見て、ぼくたちは関係のない対岸の火事だとらえてはいけません。差別に火が付いたときに指摘や修正ができるように、僕たちもこの問題に関心をもち考えることが必要ではないかと思いました。

3年4組 北岡 日和さん
 みなさんは、AIが軍事利用されていることは知っていますか？ 今、どんどん進化しているAIですが、それは軍事方面でも使われています。AIと戦争は皆さんが思っているよりも深い結びつきがあります。私はそのことをぜひ皆さんに伝えたいと思い「AIと戦争」というテーマに決めました。

まず、「AIが軍事に利用されている」ということは、いい方向にも悪い方向にもとらえられます。AIが軍事利用されることのメリットの具体例を言うと、人間の代わりにAIを戦力として使うことになるので、まず自国兵士の命を守れます。そして、ロボットなので24時間365日稼働できる、判断と行動の制度が向上するなどがあります。この部分だけ聞くと、AIを軍事利用することは、とてもいいことだと思いますよね。けど、デメリットもあります。例えば、AI兵器が人間の手から離れ、暴走すれば大変な被害になります。そして、こちらを見てください。ドローンまでもが戦争に使われようとしています。ドローンにAIを搭載し自律的に任務を遂行させれば、敵地への偵察や攻撃も可能です。今まで有人飛行機で行っていた危険な任務でも、AIで自動化することで、被害が少なくなると考えられます。そうなればもっと被害が出ることも十分に考えられるわけです。そして、AIは一方では軍事利用ではなく、様々な場面で活用されています。例えば医療方面で活用されていたり、将棋ソフトなどにも活用されています。このように、AIは軍事利用せず、いろいろな人が役に立ったり楽しめたりするような、平和につながるような方向で活用することが大切だと思いました。

文化発表会実行委員会チーフ 田邊先生
 コロナ対策のため全ての行事が例年のように行えなくなりました。来年は収束に向かい全開で行えることを願います。

1年生文化委員会担当 岩上先生より
 コロナ禍の中でも例年通り行い、テーマも生徒が考えて決めました。「5クラスで1つの物を作ろう！」と取り組み、一見バラバラのようですが出来上がると1つのストーリーになっています。達成感があり素晴らしい文化発表会になりました。

2年生文化委員会担当 廣瀬先生より
 コロナだからこそ、この形でもこれでよかったと言えるような内容にしようと取り組みました。生徒全員が考え、全員が自分ごととして取り組みました。見ている人も一体となり、一人ひとりができることを全力でやりきることができ素晴らしい文化発表会になりました。

美術部担当 深谷先生より
 夏休みの取り組み時間がなくて、全体で取り組む共同作品に時間をかけることができなかつたのがとても残念でした。そんな中でも、一人ひとりが個人作品に熱心に取り組んでくれました。

手芸部担当 佐藤先生より
 舞台でのファッションショーはなかつたですが、個性あふれる多種多様な作品を発表することができて良かったです。生徒の皆さんの感想の中に、「売り物みたいだった。」と書いてもらえて、とても嬉しかったです。作品作りの励みになりました。

